

國文學論叢

第 37 号



『土蜘蛛草紙』における漢文学の受容	……………	白 溪	(一)
『加古川本艸綱目』のモデルに関する覚書	……………	野澤 真樹	(二五)
——附・「のら」について			
大正一四年の江戸川乱歩	……………	宮本 和歌子	(二九)
慶長五年十二月二十日和漢聯句訳注(上)	……………		(三九)
大山 和哉・川崎 美穂・河村 瑛子			
中村 健史・野澤 真樹			
平成二十八年度 京都大学国文学会 研究発表要旨	……………		(六三)
『サントスの御作業の内拔書』における			
「ヒトリ」と「イチニン」について	……………	小鹿原 敏夫	(一)



京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室

平成 29 年 (2017) 3 月

前々号(第35号) 目次

『蒙求和歌』『百詠和歌』の表現

——歌人としての源光行 小山 順子

『蒙求和歌』第三類本の性格

——解題にかえて—— 森田 貴之

『釈迦の本地』の諸本

本井 牧子

『源語詰』と『源語梯』の比較

——見出し語の照合を中心に——

康 盛国

江戸川乱歩「人間椅子」論

——エログロという評価と心理的盲点——

宮本 和歌子

『花園天皇日記(花園院宸記)』

正和二年六月記——訓読と注釈——

花園天皇日記研究会

『鳳城聯句集』訓注稿(二)

楊 昆鵬

平成二十七年年度 京都大学国文学会
研究発表要旨

漱石『三四郎』と『オルノーク』について

小鹿原 敏夫

前号(第36号) 目次

『苔の衣』冬巻と遁世 関本 真乃

『ふくろふ』諸本の成立について

——静嘉堂文庫本を中心に—— 荒木 希美

幸田露伴「雪たたき」の構想

——久生十蘭「鶴鍋」への影響に及ぶ——

須田 千里

岡本かの子追悼言説分析 松本 和也

怪人二十面相論 宮本 和歌子

辻邦生『廻廊にて』の〈証言者〉

——初期小説論における

「ナラシオン」の問題とのかかわり——

飯島 洋

『鳳城聯句集』訓注稿(三)

楊 昆鵬

平成二十七年年度 修士論文要旨

投稿規定

- 一、本誌は、投稿資格を設けることなく、国語学・国文学に関する論文を広く募集します。
- 一、投稿論文は四百字詰原稿用紙にして四十枚（本誌の頁数で十二頁）以内とし、これを超過した場合、実費をご負担いただきます。
- 一、原稿の採否は査読委員会が決定いたします。採否の問合せにはお答えしないことを原則といたします。
- 一、掲載された論文は原則として京都大学学術情報リポジトリにその全文を公開します。
- 一、原稿の締切は毎年二度、七月・一月の末日とします。
- 一、ワープロを使用した場合は、ソフト名（機種）・四百字詰原稿用紙に換算した原稿枚数を明示の上、電子媒体と印字した原稿を同封してお送りください。電子媒体と印字した原稿は返却いたしません。
- 一、四百字詰原稿用紙二枚程度の要約文を添付してください。
- 一、校正は原則として再校までとします。
- 一、論文掲載の場合は本誌三部を贈呈いたします。それ以上の本誌・抜刷については実費を申し受けます。
- 一、宛先は以下の通りとします。
〒六〇六―八五〇―一 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室内「國文學論叢」編集部

平成二九年三月三十一日 印刷
平成二九年三月三十一日 発行

京都大学國文學論叢 第三七号

編集発行者

京都大学大学院文学研究科
国語学国文学研究室内
「國文學論叢」編集部
〒六〇六―八五〇―一
京都市左京区吉田本町
電話 〇七五―七五三―二八二四

印刷者

京都市南区吉祥院池ノ内町10
明文舎印刷株式会社

表紙題字『易林本節用集』より

（京都大学文学部蔵慶長板）